

2024 年 12 月 15 日（日）第二礼拝「紅海作戦」出エジプト 14 章 1～31 節

イエス様を信じて救われた私たちは、神様の導きを受けます。その神様の導きの中で、私たちが良いと思える状況もあれば、絶望だと思える状況もあります。ここで大切なのは、信仰です。「わたしの義人は信仰によって生きる。」（ヘブル 10：38）神様は良き神様です。どのような状況であれ、この良き神様を信じ、耐え忍ぶことが大切です。

第一番目、出エジプトです。イスラエルの民は、四百三十年間、エジプトで奴隷の生活をしていましたが、家の門柱とかもいに小羊の血をつけて、奴隷の生活から完全に解放されました。その時、彼らはエジプトから銀の飾り、金の飾り、着物を要求し、エジプトからはぎ取りました（出エジプト 12 章）。彼らは勝利者として戦利品を取り、編隊を組んで軍隊のようにエジプトから大胆に出てきました。この軍隊の指揮者は神様でした。出エジプトした後、神様は雲の柱（御言葉）、火の柱（聖霊）を通してイスラエルの民を導きました。

第二番目、良き神様に信頼することです。彼らの住んでいたラメセスから約束の地まで、直線距離で約三百二十キロでしたが、そこには強いペリシテ人たちがいたので、民は遠回りをしました。神様の雲の柱、火の柱の導きで南下し、ついに紅海の手元に到着し、宿営しました。しかし、エジプトの軍隊が追って来て、前方には深い紅海が広がり、民は行き詰りました。水中で死ぬか、世界で一番強いエジプトの軍隊と戦って死ぬか、その二つの選択肢しか残されていませんでした。絶体絶命の状況になり、彼らは非常に恐れしました。もし私たちが問題に注目するなら、恐れが支配します。しかし、神様に注目するなら、問題は小さくなります。「信仰の創始者であり、完成者であるイエスから目を離さないでください。」（ヘブル 12：2）イスラエルの民は、この切羽詰まった状況で、エジプトの奴隷生活から救い出された神様の御業を忘れてしまい、「エジプトに戻って死んだほうがましだ」と言い始めました。このように救われる以前を懐かしみ、エジプトの奴隷（罪と死の奴隷）に戻ってはいけません。神様に信頼し、神の民として歩み、永遠の自由、いのちの祝福を選ぶことが大切です。

第三番目、紅海作戦です。「恐れてはいけません。しっかり立って、きょう、あなたがたのために行われる主の救いを見なさい。あなたがたは、きょう見るエジプト人をもはや永久に見ることはできない。」（出エジプト 14：13）救いは、神様の審判とともに来ます。イスラエルの民は四方八方、敵に囲まれ、紅海を目前にして前進することができませんでしたが、神様は救いの道を開いてくださいました。海の水は左右に壁となり、道無き所に道ができ、イスラエルの民は海の中のかわいた地を通ることができました。私たちが祈る時、神様の約束が与えられ、神様が導いてくださいます。しかし、追いかけてきたエジプト人たちは全員、海の中に投げ込まれ、死んでしまいました。民は、自分たちを苦しめた者たちの死を、すなわち、神様の審判を見ました。罪のために死ぬべき私たちは、イエス様によって救われ、追いかけてきたサタンとその軍隊が水に流されました。私たちを苦しめ、追いかけてきた問題が流されて無くなったのです。これは洗礼の型であり、救いなのです。アーメン！